

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ドリームスクールえる			
○保護者評価実施期間	令和8年4月1日	～	令和8年4月20日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	18
○従業者評価実施期間	令和8年4月20日	～	令和8年4月25日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所は、厚生労働省のガイドラインに沿って健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性の五領域にわたる総合的な支援をおこなっています。 健康・生活面 では、毎日検温と健康状態をチェックしています。 運動・感覚 については、下欄で述べるように室内外で基礎体力をつける運動や多種目のスポーツを体験させています。 認知・行動面 では野外活動や自然観察をとおして、認識世界を広げ、児童を取り巻く環境を把握し適切な行動ができるように、支援しています。 言語コミュニケーション においては、豊かな表力によるコミュニケーションの向上を目指します。 人間関係・社会性 については、SSTを頻繁に行いルールやマナーを守り、協調性・社会性を育てます。	当事業所では、 言語聴覚士 を採用し、特に言語に問題にある児童を専門的に個別指導を行っています。このように言語聴覚士による個別指導は沖縄県内では珍しい事例だと思います。 さらに、当事業所では、児童の自主性、自己肯定感協調性を高めるため定期的に 子供会議 を開催しています。会議の司会進行を子どもたちで行い、できるだけ全児童に意見や発言の機会を与えます。自分たちのことは可能な限り子どもたち自身で決めてもらいます。	当事業所では、左欄で述べたように五領域にそって総合的な支援を行っていますが、特に児童間の人間関係や社会性を育てることに今後はさらに力を入れたいと考えています。子供たちにとって情緒の安定した環境づくりと仲間を尊重し気配りのできる寛容なところを育て良好な人間関係と社会性の向上を目指します。
2	利用児童の障害の状態、人間関係を含めた環境や心理状態に合わせて個別対応している。特に心理的な理由で完全不登校又は登校渋りとなっていた児童に対しメンタルケアをしながら支援を行いこれまでに13人以上の登校を実現した実績があります。	保護者のニーズに合わせて土曜日や祝日も児童が利用できるような開いています。 さらに、送迎時間についても調整するなど柔軟な対応をしています。	児童にとって達成感がえられると同時にさらにやる気を起こさせる支援をめざしたい。今後も児童の目標や夢実現に向けて今後も保護者や関係機関と連携しながら支援していきたい。
	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在、保護者同士の交流がほとんどないので、同じ障害児をもち子育てに悩む保護者同士の交流の場をつくりたいと考えています。	現在組織化された保護者会がないので、一部の保護者から保護会を作ってほしいとの要望があります。今年度は保護者交流の場とすべく保護者全員に文書または電話で開催を呼びかけることを考えています。	保護者全員参加を目標にしますが、最初は参加可能な少人数から取り組みたいと思います。
2	現在外部評価を行っていないので第三者で構成する評価委員設置の必要性を感じています。	評価委員の選定や委嘱方法、さらに報酬をどうするかなどの課題があります。評価委員の人材発掘、委員報酬など予算を伴うことなのでこれまで実施できずにいる。。	自画自賛にならないように事業運営に第三者の客観的な評価や意見を採り入れる必要性を感じています。評価委員にこだわらずどのような方法で第三者の意見を聞き採り入れるか今後検討していきたい。